

# 営農情報(令和6年6月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

## ■果樹全般

### ◇施肥(夏肥)

肥料吸収が旺盛となる夏期の施肥は、光合成能力を高くし、樹体の基礎体力を充実させ、果実の肥大促進、新根の伸長等に用いられる。

品目	時期	施肥基準(kg/10a) N-P-K	肥料名	施用量(10a)
温州みかん(早生)	6月上旬	5-4-4	柑橘なつとく配合(粒)	50kg
〃 (高糖系)	6月中旬	12-7-10	〃	120kg
すだち	6月上旬	10.5-6.3-8.4	ニューグリーンすだち	80kg
ゆず	6月下旬	7-4.2-5.6	木頭ゆず配合	60kg
かき	6月上旬	4-2.4-3.2	阿波のかがやき	40kg
キウイフルーツ	6月上旬	4-2.4-3.2	キウイ配合	50kg

※温州みかん交互結実栽培の場合、生産園は増肥する。

## ■キウイフルーツ

### ◇摘果・摘芯

摘果は、開花2週間後から行う。仕上げ摘果は樹全体で葉5枚に1果を基準とする。

摘芯は最先端の果実から12~15節先で行う。

### 【6月の病虫害防除】

#### 温州みかん

時期	対象病虫害	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
6月中旬	ゴマダラカミキリ (主幹部散布)	アクセル(フ)又は モスピラン(顆水)	200倍 〃	7日 14日	3回以内 〃
		ミカンハモグリガ	エクシレルSE	5000倍	前日
6月下旬	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ	モスピラン(顆水)又は トランスフォーム(フ)	4000倍 2000倍	14日 前日	3回以内 〃
		ミカンハダニ	ハーベストオイル	200倍	—
	黒点病	ジマンダイセン(水)又は ペンコゼブ(水)	600倍 600倍	30日 30日	4回以内 〃

※下旬の防除は混用できる。

※ミカンハモグリガの薬剤は、数剤のローテーションにより連用を避ける。

#### すだち

6月中旬	ヨモギエダシヤク ミカンサビダニ	コテツ(フ)	4000倍	前日	2回以内
6月下旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル又は ダブルフェース(フ)	200倍 3000倍	— 前日	— 1回
	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	モスピラン(顆水)又は トランスフォーム(フ)	4000倍 2000倍	14日 前日	3回以内 〃
	黒点病	ストロビー(ド)	2000倍	14日	3回以内
6月下旬	かいよう病	ICボルドー66D	200倍	—	—

※ICボルドーは、ハーベストオイル、ストロビー、ダブルフェースとの混用は不可。

コテツとの混用は、凝集を避けるため、先にコテツを溶かす。

#### ゆず

6月中下旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル又は ダブルフェース(フ)	200倍 3000倍	— 前日	— 1回
	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	モスピラン(顆水) トランスフォーム(フ)	4000倍 2000倍	14日 前日	3回以内 〃
	黒点病	エムダイファー(水)	600倍	90日	2回以内

※青玉出荷する場合、黒点病にはストロビー(ド)2000倍(14日前/3回以内)を使用する。

## か き

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
6月上旬	カキノヘタムシガ・イラガ	パダンSG(水溶)	1500倍	45日	4回以内
	炭疽病 落葉病	ジマンダイセン(水)	600倍	45日	2回 //
6月下旬	フジコナカイガラムシ	モスピラン(顆水)	2000倍	前日	3回 //
	炭疽病 落葉病	エムダイファー(水)	600倍	45日	2回 //

## キウイフルーツ

6月全旬	果実軟腐病	トップジンM(水)又は ベンレート(水)	1000倍 2000倍	前日 7日	5回以内 //
発生園	カメムシ類	アディオン(乳)	2000倍	7日	5回以内



## ■水 稲

### ◇田植え前後の管理

#### 【病害虫防除】

田植7日前から当日までにビルダーリディア箱粒剤50g/箱 を施用する。  
いもち病、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ等に効果がある。

#### 【除草剤の散布】

次の初中期一発処理除草剤を使用する。

	(散布適期)	(10aあたり使用量)
ジェイフレンドジャンボ	田植後 5～12日	400g
ゴウワンDLジャンボ	田植直後 ～ 6日	700g
ディオレージャンボ	田植後 3～12日	400g
エンペラーフロアブル	田植直後 ～12日	500ml



除草剤は田面が露出して乾燥してしまうと効果を失うため、散布後50日程度は、田面が乾かないように水管理に注意する。

#### 【ジャンボタニシの対策】

ジャンボタニシは、主に田植え2～3週間後までに被害を受ける。その後は深刻な被害は受けないので、農薬で防除する場合は、早めに行う。

ジャンボたにしくん	1～2kg/10a(収穫60日前まで、2回以内)
スクミンバイト3	2～4kg/10a(使用時期、使用回数制限なし)

## ■夏秋なす

### ◇定植後の管理

- ・主枝は4本仕立てを基本とし、1番花を中心に3～4本を伸ばし、その下に発生するわき芽は、成りぐせが付いたことを見極めて除去する。
- ・温度の低い頃は、自然結実が難しいのでトマトーン50倍を開花当日に処理し、果実肥大を促進する。(目安としては6月末ごろまで)
- ・追肥は、定植1か月後を目安に速効性の化成肥料を10a当たりチッソ成分で3kgを目安に施用する。その後は10～14日間隔を目安として草勢に応じて追肥間隔を調整する。

### <お問い合わせ先>

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA営農振興課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768